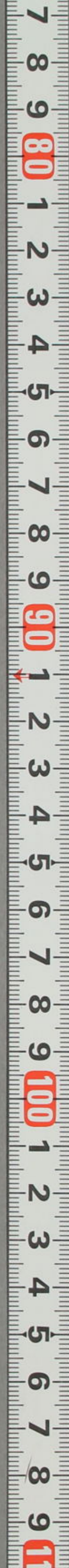
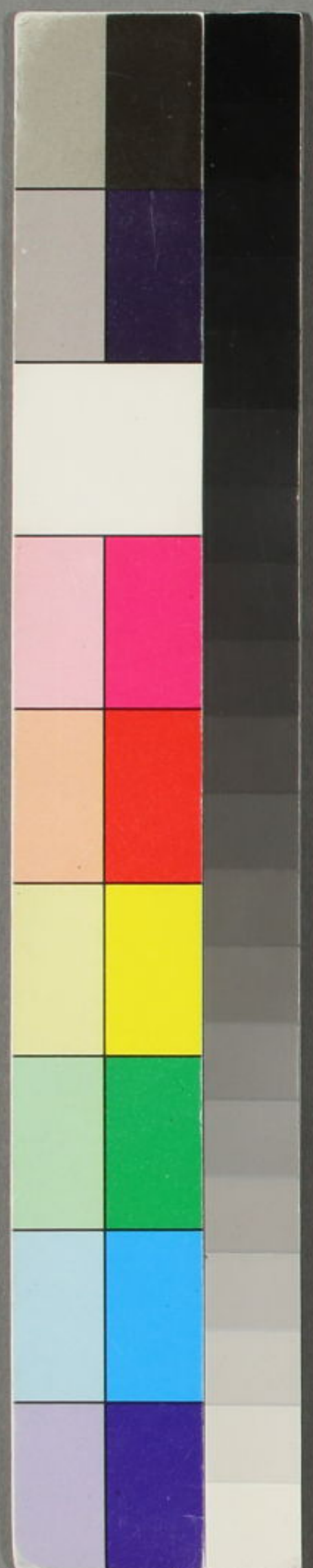


本朝名公要寶

中春



本

廟

名

云

堂

賢

卷

序

目

錄

伏

見

院

後

伏

見

院

考

國

姓

王

本朝名公墨寶卷之中

目錄

伏見院

後伏見院

為圓親王



為道親王

為鎮親王

為朝親王

為純親王

近衛國白儀基

本門沐光悅

伏見院

山
廬採薇
雲不狀

洞中栽樹

鶴先知

鳳池後面

新煉月

龍閣前頭

薄暮山

聲韻印時

東坡詩話

山睡甲日

偏衣風

落枕波聲

分岸一夢

南 道板に

あま

生る

じめ のむうき

かきんく

きんくきん

あま

より雪れ

あきくあき

うへはみこ

いゝおるは

おけさう

かゝる

祝

おさげと称ま

しもなは

あま

かゝる

月を

冬 ちやうど ながむ

かみね

花と

本乃百

月

あき

ふあ

雪と 柳葉 あり

も 海と も に いる

か く ちやうど あり

あ き ちやうど あり

花の ちやうど

たもやね心れ

うふいさく

り

おはうふさく

おはうふさく

後

後伏見院

得少年

長乞巧

竹竿上

願總

多

賣藥修琴

歸去重山風

吹東桂花枝

世間甲子須
更々吾若仙
人其省其累

世のふりば夢が
うたゝるふと
あふゆめもあふ
あふあふれ

あまにきりあはれ

いくせのなとあはれ

きりあはれ
のせ

あまにきりあはれ

あまにきりあはれ

あまにきりあはれ
あまにきりあはれ

あまにきりあはれ

あまにきりあはれ

らさるにあらぬ

しきもなと

乃
あふよるう

うんさる

字體

贈一品為圓親王

看子夜
聲不響

老翁手晚

鬚相尋

十月江南天

氣好今憐冬

氣似春華

上及天氣倍

例下官位取
屋右官未白
越式七白如燕

如焚不知為力
子然心自從
花樣結如河

欲供車馬大
河過車馬是
交如然此是

屋舍不使
又逢友者微生
下出外住院

因廢金集行
酒烟寫其水吟
美室各之如奇

散熱涯盡之
海海又出如老
秋之天百人子

得如外楷教至
云之納源く地
何意又包出動武

年每百廿指中
子之明中
終如名風一掃

吾輩得此者一種

之語乃始之也

河朔之飲玩也

可奈高之德也

乃也

海濱之成集也

海湧之直下無底
旁無過雲濤煙浪
最深處人傳中有
三神山之生不死

藥服之羽化為天仙
秦皇漢武信此謠方
士年之採藥去蓬萊
今古但聞名大石崖

無負處海濱之風
浩之眼寧不見蓬
萊鳴不見蓬萊不
敢歸童男仆女舟

中老徐福文成多
遊地之元右一處祠
棲天表瀛山海上杜
陵頭策杖出風

吹萬竽并河吹玄
元生祖五子玄玄
素不言仙上不知
白甘拜素玄玄

見たりはるかに
さういふこと
交り合ひて
しるす

みくのも人へ

かゝるむさうな

てしにわく

い酒をふ

あま

花の名ふれ

たれおを

あま

あま

あま

まぶ
い
は
の
ま
の
ま

わ
ま
の
ま
の
ま
の
ま

ふじきふ

山の薬師

あはれ

あり

ふじきふ
ふじきふ
ふじきふ

一品為道親王

三山ふじきふ

ふじきふ

ふじきふ

新 華 起 煥 英

新 華 三 分

半 新 華 一 白

あまの原より

山あふまは

みづの かなる

やまふ

いさめ月も

叙やうのさうれ

あうめふ

こま

うまはうえ

ふらうん

二品親王の鎮

ふ藤露座

翠竹 紗記

煙中 常為勢

たふさう舞の

夜ふく月

かき

あけ

梅

を

ふゆと乃と

不堪紅葉

青苔地

又先涼風

書西天

あふ 抱え 時ぬ ちん
う ちが 山 登
— た 桑 の ちん
ちん 連 — に ちり

二品孝朝親王

風生竹 秋 忘
間外 月 照 松

何處より

苗春不用開

城園花落隨

風多入雲

夕の光を

おもひて

寺門之石記

記方之

力

當青蓮院殿二弟純親王

池冷水無三
伏友松子風
有 一 聲 林

馬の針のいと
井のくを
おひ
ひすいあ
て

る
あふ
あ

清
智
有
静
溪
静
を

落日樓高

林深長

いふらふはあふ

はらふはあふ

いれぬ

あふはあふ

あふはあふ

けふ

近衛殿信基

錦懷曉開雲

母殿白珠秋

鳳水精盤

いさふれは
もせはるる
人つる
ま

行宮見月陽
心色夜雨
横断月陽

ちけぬく砂金

やゆりしに鷹

いづみさき

たき乃高風

本阿弥光悦

常

うきもの

乃や流

お

しほ

しほ

しほ

しほ

しほ

しほ

しほ

々
に
:

に
に
に
に

に
に
に
に

に

に
に
に
に

に
に
に
に

に

に
に
に
に

に

に

意之海底

其

其

初言

其

神板

其

しきり

あ

是乃流

は

中巻終

目

